

鏡川流域パートナーシップだより No.70 R5.8.9



新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

「Biome」を使ってオリジナルいきもの図鑑をつくってみよう！(実践編)

今回の「鏡川流域パートナーシップだより」はインターンシップ生の坂本が担当させていただきます！今回は「Biome (バイオーム)」を使って、実際に鏡川流域に生息する動植物を撮影してきました。大学では生物学を専攻しており、所属している学科の授業では、植物の植生や動物の生態の調査、生育する植物の種名を判断して標本を作る課題があるため、種名を判断する際に参考として使うことができそうです。「見たことはあるけど名前には知らない…」という動植物の写真を撮影し、投稿するだけでも簡単に種名を知ることができるため、「学ぶ楽しさ」を発見するとともに、生物に対する興味がより深まりました。このアプリを使うことで身近な自然に触れるきっかけとなり、周りにどんな生物が生息しているのかを知ることができるため、生物に詳しくない人でもおすすめです！

実際にアプリを使い
調査してみました！



インターンシップ期間中に、8/1(火)～8/31(木)まで開催中のクエスト「鏡川流域いきもの図鑑をつくろう」に参加させていただき、10種類以上の動植物を撮影しました。この記事を書かせていただいている時点で、コンプリートをしたのは私が最初だったとのこと(笑)。(熱心な市職員の方は、猛追したのにも関わらず2番手だったのでだいぶ悔しそうにしていました…)鏡川流域には様々な生物が生息しているので、皆さんもぜひコンプリートを目指してご参加ください♪

～鏡川流域に生息する生物たち(インターンシップ生 坂本編)～



→エンピツジャクシン
見た目は鉛筆のようになっていますが、触れると柔らかいです。



→ツワブキ
ツワブキはアクがきついです。しっかり下処理をすればきんぴらや煮物など様々な料理で大活躍です♪



→セトウチマイマイ
春から秋ごろに木の上を這っている様子が見られます。



→お馴染みの県鳥君
もちろん「Biome」でニワトリと判断されました。近づくと足早に逃げられるので撮影するのに苦労しました…。



→オカダンゴムシ
私たちが普段見慣れているダンゴムシですが、実は外来生物でもあります。



→ススキ
川辺や空き地によく見られる植物です。



↑キダチルリソウ
(「Biome」利用者「キコウグマ」さんの投稿)

「Biome」でのレア度はA!
Aクラスの動植物の写真を撮ることは難しいので取り上げさせていただきました！

身近にある自然に触れるだけでも心が穏やかになります！



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。
<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone Android